

研究公開文書

2025年 7月 14日

研 究 名	大腿骨近位部骨折患者の大腿四頭筋筋輝度がADLに及ぼす影響
研 究 の 概 要	<p>高齢化が進む本邦において、大腿骨近位部骨折患者は増加されている。大腿骨近位部骨折により日常生活動作(Activity of Daily Living)や生活の質(Quality of Life)は低下する。</p> <p>超音波画像診断装置は筋肉を非侵襲的で受動的にモニタリングできる機器である。超音波画像診断装置で測定した大腿四頭筋筋輝度は高齢の入院患者のADLに影響することが報告されてる。しかし、大腿骨近位部骨折患者を対象とした報告は少なく疾患特異性は明らかではない。そこで本研究の目的は、大腿骨近位部骨折患者の術後大腿四頭筋の筋輝度がADLに与える影響を明らかにすることとする。</p>
研 究 対 象	<p>包含基準：大腿骨近位部骨折で入院し、手術を施行した患者</p> <p>除外基準：末期がん、慢性肝疾患、経管栄養患者、骨折前歩行困難、感染による隔離、リハビリ拒否、リハビリ中止、65歳未満</p>
研 究 責 任 者	小田原市立病院 リハビリテーション室 小澤哲也
研 究 実 施 期 間	研究許可日～令和9年3月31日
連 絡 先	小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175